

私の  
子ども



時代(5)

夢のような明治

なかざと  
中郷

せいこ  
誓子

中郷さんに明治の頃のお話をうかがいました。中郷さんは明治二十八年(一八九五)年生まれ、今年で満九十九歳と大変ご高齢な方ですが、読書好きで、足立区主催の老人大学―あしだち大学―で学ぶ傍ら、俳句の会「くるみ会」の代表責任者もなさっていらっしゃるという、意欲満々のおばあちゃまです。(編集部)

◎東京下町月島、築地界限

生まれた所は福岡県小倉市、代々続いた瀬戸物屋でしたが、火事で丸焼けになりまして、それで

東京で一旗上げようと両親と私の三人で上京したのが数え年で四歳。かすかに覚えています。父が工業が好きだったもんで、私の五、六歳の頃か



ら、亜鉛の地金を作る工場を作ったんです。初めは月島でした。日露戦争の前ですから明治三十六〜七年ですね。月島はまだ本当の島で、工場も何もない埋め立て地でした。父はそこに三〇〇坪の土地を買って、工場を始めました。

三年生までは、築地小学校に通っておりまして。そのころは魚市場なんかありませんよ。居留地があります、外国人の住まいが一箇所にかたまっていました。

隅田川の下流、今でいう勝鬨橋はまだ渡しでした、永代橋えいだいからこっちはまだ橋かみどきがなかったんです。渡しを渡って佃島つくだじまがあり、月島にも政府でやっていた無料の渡しがありました。月島から築地小学校へ渡して通っていました。三年いっぱいまで、月島から通っていたのは、私一人でしたね。

その頃の遊びは、おにごっことか、かくれんぼ、お手玉、あやとり、そんなもんですね。なわ

とびも少しはやりましたが、女の子ですからあまりしませんでした。お手玉はよくしました。母がよく作ってくれました。でも十歳ぐらいですから、満足にはできませんよね。おもちゃはままごとがいっぱいありまして、よくしました。買ったものもあるし、自分でそこいらに行つて草をむしってきたり…。まだ空き地がずい分ありましたよ。男の子と一緒に遊ぶことはありませんでしたね。絶対に男の子とは…。名前も知らない。

言問ひし鳥はかわらず業平忌

誓子

### ◎本郷の女学校へ

当時は尋常小学校が四年、高等小学校が二年まで、ちょうど私の時に尋常五、六年という制度になったんですが、私はちょうどその切り替えの時に当たり、尋常四年をしないうで飛び級で五年程度の女学校の子科に入りました。その女学校は本



郷龍岡町、湯島天神のすじ向かいの小さな私立学校でした。知り合いの縁故がありまして、早いけどまあいいわ、いれてあげるよ」という訳でまいました。

学校へは毎日往復五銭の割り引き料金の市街電車で went ました。七時まで、人口に割り引きの札がかかっているんです。七時すぎるとそれが往復七銭になる。五銭ずつしかもらわないので、時間にあわないと歩いて行くんです。そして帰りはいつも歩き。本郷の湯島天神の前からいろんな道を通って帰りました。神田須田町まではあの道、この道。須田町からは日本橋を渡り、銀座から真四角に来ると小田原町から月島へ渡る渡しがあります、それで帰りました。冬など学校がご当番なんかで、遅くなりますと、渡し場まで着くに日暮れすれすれになるんです。あつ、最後の船があそこに行った！”と思うと、もう渡れないんで、今後はぐるっと大回りして明石町へ。つ

まり目の前にうちの工場があるのに、渡しがないとずつと遠回りして三〇分か一時間かかって帰る。そんな思いをして学校へ行きました。予科二年と本科一年まで通って「体も弱いし、お前は外に（お嫁に）行く子じゃないからもう学校へは行かなくてもいい。やめろ」って言われましてね、それからずっと家におりました。

学校は私立日本女学校といまして、校長先生が人望の厚い方で、式の時には渋沢栄一さんや東久世伯爵なんて方も講演にいらしてね。渋沢さんは校長先生のお友達だったろうと思うんですが、よくいらしたんですよ。全校生徒で三〇〇人かそこいらしかいないほんの小さな私立学校でした。当時の服装は着物です。洋服は一切着ませんでした。学校では一人二人洋服のお嬢さんもいらしたけれど、私は海老茶の袴と袂の長い着物でした。ね。そのまんま学校の行き帰りも歩きました。一日のほとんどが学校とその往復です。



子科の時のお友達は一人、株式屋さんでお金持ちのお嬢さんがいました。みんな遠くからいらっしやるんで、そこのおうちに遊びに行ったこともないし、学校がひければさようならって一人で帰るんです。

往復切符の復切符を母に渡さないとおこられるんで、どうしても二時間かかって歩いて帰ってくる。そのおかげで今日まで足も体も丈夫。それは母に感謝しています。「体のためだから歩きなさいよ」っていわれましてね。小さい時は細くて弱くて、それが歩いて丈夫になりました。お蔭様でこの年になるまで一度も病院に入院したことはないの。足だけはなんとかね。

### ◎買物は銀座、日本橋へ、遊びは日比谷へ

渡しを渡って向こうが築地ですから、買物はみんな築地の方へ行きました。あの頃、魚市場はできたてぐらいでしたね。そして銀座の四丁目へ出



たりして、うちはよく銀座では木村屋のあんぱんなんか買いましたね。木村屋のあんぱんは有名でした。四丁目の角に服部時計店という大きな時計店があって、その隣が木村屋でしたね。今はもう



少し京橋寄りになっているでしょ。あの辺はあまり変わっていませんね。それから墨や筆を売っている鳩居堂。あそこへもよく行きました。日本橋のニンベンにもよくおつかいを頼まれて、鯉節を買いに行きましたよ。あのぐらい歩くのは平気でした。

遊びに行くのは日比谷公園とか。まだできて間もないころでしたよ。日比谷公園ができたのは明治三十五、六年だと思いましたがね。九つぐらいの時母に連れられて行きました。滝はありましたけど、まだまだ何もなくて。レストランの松本楼はもうありました。あれ一軒だけ。今のようにあんな大きな料理屋じゃなかったですね。九十年も前のことだから。でも、行ってちょこっと入れるような所じゃなかったですよ。ちゃんとお膳に座らなければ食べられないような、高級な人たちがいく所だったと思いましたがね。簡単に行けるようになったのは、ずっと後の話ですよ。

### ◎お花見は船に乗って

お花見にはよく行きました。うちに船があったもんですから、月島から船にのって隅田川を上りずーっと荒川の上流の足立の五色桜まで行きました。今のように自動車がありませんでした。時代ですから、工場の製品も馬力で運ぶんです。向こう岸まではどうしても船で渡してそれから馬力に積んで、小伝馬町の大門通りの金物問屋まで運びました。ですから、お花見もその船に乗って行ったんです。

お花見の時には船にお弁当やなんかいっぱい積んで、工場で働いている人も家族もみんな乗って、朝八時頃から帰りはもう日の暮れるまで。船でいくので歩かずにすみましたよ。荒川の五色桜っていう広い原っぱがありましたよ。白、赤、墨染めなど五色あったんでしょね。五色桜って有名だったんですよ。



### ◎歌舞伎は大好き

銀座に出るまでに、歌舞伎役者の中村芝翫しんむらという、後に五代目歌右衛門になった人ですけど、その芝翫の家があったんです。月島から渡しを渡っていく河岸かしっぶちにね。よくその前を通過って銀座へ行きましね。芝翫っていったら女形のねエ。脱疽だつそだか鉛毒だかのため立てないで、立ってもやっどヨロヨロぐらいでしてね。芝翫の淀君といつたら天下第一品でした。

私、お芝居が好きでね、歌舞伎座が近いでしょ。母によく連れていかれました。ミソノ会とかミツワ会とか、安くお芝居が見られるんです。新聞に募集広告が出るんですよ。一円五〇銭か二円台ひらどまで平土間ひらどまに行かれるの。平土間ひらどまというと、四人座れるんです。母と一緒によく行きました。『菓弁かべん寿すつき』といいまして、お菓子とお弁当とお寿司がついて、つまり昼の十一時頃から夜の八時頃まで通して見られる。『カベンス』って言い

ました。

舞台へ入っていく広い花道があって、その間にまた人が歩くだけの花道があって、その間あいだに四人位座れる枱席たいせきがある。お相撲と同じね。皆さん十一時か十二時頃から七時か八時の終わりまで一日楽しむわけです。お客さんは女の人が多く、まだ江戸時代の感じが残っていたんでしょ。花道の横はうずら席うずらせきって少しい高いんです。ひな壇ひなだんになってました。

出方でかたっていいまして、お相撲おさむけの裁着ざいせき（袴）はいている人がいるでしょ。あれと同じ姿の出方でかたが「ご用いかがですか？」ってききにくるの。一番先にご祝儀をちよつと渡しておくでしょ。そうするとご用ききにくるんですよ。上等は芝居茶屋から行くんですけど…。私も一、二回は芝居茶屋から行ったこともあります。それはえらい高くなります。ですからミツワ会とかミソノ会で行くと会費ポッキリで行かれますんでよく行きました。



うずらとか棧敷は高いのでたいがいのお客さんは平土間。そのあとは三階に上がって…。だんだん場代が高くなると、三階に上がって見ていました。

柝きねの音澄み身内のしまる夏芝居 誓子

### ◎明治天皇

川つぶちをまっすぐ行くと川向こうに海軍省の建物がありました。よく明治天皇様が海軍兵学校なんかへ卒業式の時など、いらっしやるんですよ。私、明治天皇様には二回お目にかかりました。ちょうどおつかいに行った帰り、お馬車ですれちがったり。そういう時はあまり行列がないでしょ。ですから、あ、あ、何か人が並んでいる。何だろうな、と思うと、そこへ天皇さんがお馬車で…。陛下はうしろに座っていらして、徳大寺侍従長さんが、低頭ていとうといってお首を前に下げたまま。さぞお首が痛いだろうと思うほど、侍従長は

そうやったまんな。橋を渡って海軍学校へいらっしやるところをお目にかかったことは、二度ほどありました。もう相当、お年をめした時でしたから、ヒゲをはやしてネコ背でいらしたけどね。

魚市場ができて、渡しを渡ってお魚を買に行った時も、何でこんなにお巡りさんが出るのかなと思っていると、たったたって、お馬車がぎって、私は「あっ陛下」と思って、ちょっと頭を下げるぐらいでした。おつかいにやらされた頃だから、十二、三歳だったんでしょね。

### ◎明治は昔…

市電は往復七銭で、すぐに九銭に値上がりしました。お豆腐やこんにやくが一銭五厘、おそばは二銭五厘、ハガキが一銭五厘の時ですから。往復も片道も七銭でしたかね。

今から思うと隔世の感っていおうか…。お金のちがいはとてもじゃないけど、ひと月に一〇〇円



取る方っていったら、相当な高級取りなんですよ。うちでも女工さんは最初は二〇銭、男が五〇銭か七〇銭でしてね、だんだんに上がっていくんですよ。

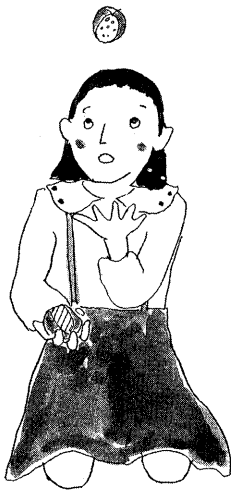
日本橋に高速道路ができたんですよ。しばらくぶりに行ったら、"あら、頭の上にとおしいものが..."ってびっくりしましたね。とにかくよく歩きました。今はもう変わってしまってますけど、東京のことは詳しいのよ。お茶の水の景色の良かったこと。下の方に駅がありまして、橋の上から木がかぶさって川が下の方に流れている。水もきれいでしたよ。神田小川町、須田町あたりにもぎやかで、寂しい所はありませんでしたね。勝鬨の渡しは夜通しあるんです。ここの渡しは古くからありましたね。今は勝鬨橋になっているけど。東京の人はみんなよく歩きました。市街電車の会社が三つぐらいあって、どれも切符がちがっていて通用しないんですよ。だから、よく歩きま

した。

銀座から浅草まで地下鉄に初めて乗ったのはいつだったかな。私の時代は何でも初めてでした。電気がついた時は十二、三歳の頃。ランプのそうじをしなくてよくなって"やれたすかった"と思ったの。そんな時代でした。

今から思うと夢のような時代でしたね。八十五年、六年も前の明治の話ですよ。

(東京都足立区在住)



(談／文責・編集部)